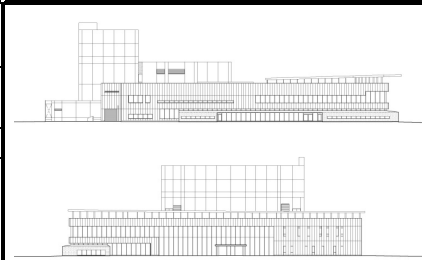


CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	境港市市民交流センター	階数	地上3F
建設地	鳥取県境港市	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、防火地域指定なし	平均居住人員	2,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,680 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年9月 予定	評価の実施日	2019年2月22日
敷地面積	18,779 m ²	作成者	石本建築事務所 能勢修治
建築面積	4,555 m ²	確認日	
延床面積	7,024 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 138 (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 92 (kg-CO₂/年・m²)

④上記+: 99 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>弓ヶ浜をイメージしたゆるやかな曲線による開放的な外観と、木構造による軽やかな大屋根により、市民が気軽に利用でき、何度も訪れたいような居心地の良い施設を目指すことで、市民活動と交流の促進、安心できる防災拠点の実現、隣接する公園の活性化にもつなげ、賑わいを発信し、境港市のまちづくりに貢献する。</p>		その他
<p>Q1 室内環境</p> <p>運営時間や気積の異なる各室に適した温熱環境・空気質環境を実現する、省エネルギーかつ快適な環境設計を行った。各室毎きめ細かい遮音・吸音性能、光環境を計画し、来館者・従業員のアメニティ向上に配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>十分な階高・天井高およびバリアフリー基準を満たす、ゆとりのある快適な空間。また維持管理や設備の更新性、災害時にも配慮した高耐久・長寿命な設計としている。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>既存の塔上彫刻の保存や、前施設の彫刻を内装に再利用するなど、地域の歴史や文化に配慮した計画。またアプローチ空間に弓ヶ浜をイメージした大庇の中間領域を形成し、地域に寄り添う施設となるよう配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物外皮の熱負荷抑制に配慮した計画とし、またエネルギー消費量を計測できるようにすることで、効率的に省エネルギーが図れるよう配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>衛生器具は節水器具を積極的に採用するとともに、井戸水を便所洗浄水の水源に利用する計画としている。また解体時も考慮したリサイクル資材の使用に配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>既存と同等の規模とし、また道路から引きを大きくすることで、駐車場の確保・圧迫感の軽減を図るとともに、周辺環境が大きく変化しないよう配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される